

ハートパル

2021年
2月
25号

女の子・若い女性の本音 ～女性活躍推進の視点から～

わが国は、国会議員、経営管理職、教授や専門職など、社会の仕組みや制度に影響力を持ち、リーダーシップを発揮できる分野に占める女性の割合が、他の先進国と比べるとかなり低い水準です。その要因に性差別があり、女性自身もジェンダーによる固定観念にとらわれ、自分を過小評価したり、周囲の理解や応援がないことでチャレンジする気持ちを抑え込んだりしています。女性がイキイキと活躍できる社会は、女性の「やってみよう」「やってみたい」を応援する社会です。そこで、将来を担う若い女性たちが今の社会をどのように見ているのか、様々な民間の調査から彼女たちの本音をのぞいてみましょう。（※ジェンダーとは、社会的・文化的な性差）



女子高校生の本音

“ジェンダー”に関してどのような経験をし、どう感じているか。

日常生活にある性差別や暴力

62%

日常生活で性的な嫌がらせや性差別を経験したり、見たりする

《コメント》

- ・テレビでは男性司会者が中心的役割で、女性は補佐的な役割である場合が多い。若さや容姿が重視される。
- ・大学入試で差をつけられていたように、女性は男性よりも何百倍も努力しないといけないのが日本社会の現状。
- ・Twitter で性差別についてのツイートをよく見る。

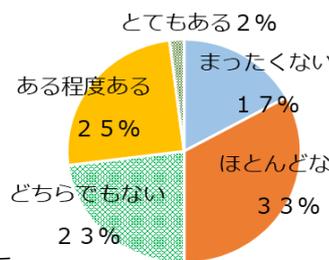
〈参考：公益社団法人ガールスカウト日本連盟発行「ジェンダーに関する女子高校生調査報告書 2019」から〉

- 49%…メディアで
- 46%…インターネットで
- 30%…公共の場で
- 18%…学校で
- 13%…交際相手から
- 9%…家で

若い女性の本音

将来、社会でリーダーになることについてどのように考えているのか。

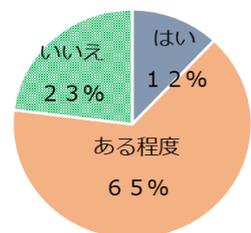
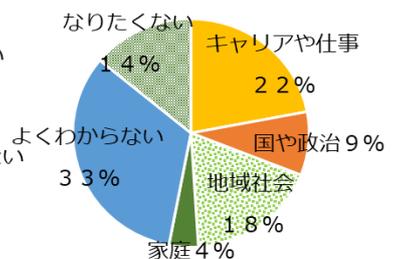
リーダーになる自信



リーダーになることを家族、友人、先生は励ましてくれたか

〈参考：プラン・インターナショナル「女の子と若い女性が考えるリーダー像の意識調査」から〉

どの分野でリーダーになりたいか



女性がリーダーになることに躊躇なくトライできるための取組

1.若手リーダーの育成を家庭から始める

家事労働は女性の仕事という固定観念をなくし、家事や育児の責任を、男女に関わらず共有する。

3.性差別やその他の差別に取り組む

女性であることを理由とした不当な扱いや暴力を無くすため、男性とともに取り組む。

2.女性リーダーのロールモデルを示す

意思決定の場に女性が増えれば社会が変わることを示す。女性リーダーから学ぶ機会を作る。

4.“やりたい!”気持ちを応援する

性別による固定的な役割分担や無意識の思い込みをなくし、女性が声をあげることを応援する。

